

策定委員会では、10月3日に公聴会を開催しました



出席者が少ないと感じる方、反対に多いと感じる方、主観はさまざまでしたが、教化について真剣に考える方々の熱意が感じられた2時間ありました。以下簡単にご意見を集約しました

2014年11月1日

A4一枚で伝える

大阪教区教化体制策定委員会発行

策定ホットライン

第4号

公聴会 報告



★教化委員長懇談会について

1 教化委員長懇談会が開かれれば企画部会は何も知らない状態となり、連携の問題が新たに生まれるのではないかと危惧する。兼務住職が自身の教化は勿論、積極的に取り組める形での教化体制の見直しをお願いしたい。

2 あくまでも企画部会が全教化の責任を負うべき場であろうと思う。今回の見直しで本来の意味での企画が点検され、今後の方向性を見だしてゆく点において、教化委員長が懇談会を開くのではなく、企画部会が直接聞き取る作業が必要だと感じる。

★主幹について

1 主幹とは教学的指導者。指導者によって右に行ったり左に行ったりする。つまり主幹の意見に左右されてしまうことだ。

★組教化事業推進部について

1 配布された資料（図面）には組教化事業推進部とある。組のありかた、教区のサポート、それに循環する体制。組に戻ってスタッフとして役割を果たして貰う人、教区の教化委員になって組との連携を果たして貰うひと、…またそういうひとを誘って集めてくれる人。そういう視点が体制見直しの基本ではないだろうか。

2 同朋会運動は総括無くして次はないだろう。教学がないと教化は成り立たない。今大切なのは教化だろう。教学研究所以はかつて教化教学研究所だった。そういうことを見失われている。

3 同朋会運動が失敗という話、あるいみそう位置づけないといけないことだろう。しかし専門部の名前を觀れば、同朋会運動の成果ではないかと思う。

★社会部について

1 社会部という表現はおかしいのではないか。何が問題なのが見えない。部落問題や在日問題、ハンセン病問題が問題なのではなく、それを問題としない方の問題なのである。たとえばここを、「人権・権利擁護部」とすべきではないか。

★ご門徒さんからのご意見

1 皆さんの話は結構なのだが、実際の現場の門徒は「組ってなんやねん」という程度。皆さんの今の発言は実際の門徒にしてみれば英語で聞いているようなもの。組で勉強会をさせていただいた上で策定委員会を招いて出かけて欲しい。

策定委員会では3つの作業を同時に行っています



広報

まずは策定委員会を知ってもらおう！
A4一枚、表裏5分で読めるものを！
やさしく、親しみやすく、目立つものを！

「策定ホットライン」は以上の目的で
毎月の発行を目指しています



聞き取り

まずは教化活動の現場で
活躍されている皆さまからの声を
聞くことが大事！

ということで見直しの審議会から引き継ぎ
各部・各団体聞き取り作業を実施中です



策定

「策定」とは、政策や計画などを考えてきめること
門徒～寺～組～教区の潤滑なつながり、
現場の声を上げていくボトムアップ、
教化体制のスリム化など、イメージはあるものの、
まだまだ具体的な形にはなってありません。
今後はこの一番重要な教化体制の策定作業にとりかかります

訂正とお詫び

前号裏面に掲載いたしました、「原発に依存しない社会の実現を目指す実行委員会からの声」のうち、第7番目の項目「課題を追求すれば専門家が生まれる。これまでそういう学びをしてきただろうか。今こそ社会問題への専門家が必要なのではないか。社会部の設置により、課題意識を持った方を育成する姿勢も大切だと感じる。」という発言について、「策定委員からの発言であり、削除を要求する」と公聴会席上において指摘を受けました。

策定委員会の聞きとり手順は、意見聞きとりのうち懇談という形式を取っており、その内容を複数人の発言から類別し、編集してお届けしております。これは長時間に亘る会議内容を簡潔に示すための伝達手法と捉えておりました。

しかしながら、公聴会での指摘のとおりこの手法による文章の取りまとめでは、「～の声」と表題に明示する聞き取り調査の報告としては不適切であると確認し、ここに削除し、誤解を与えたことをお詫び申し上げます。

策定委員会

